

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 音 楽

番号 観点	発行者略称	教科書番号
	教出	〈小学音楽 音楽のおくりもの〉 103 203 303 403 503 603
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の目標を達成するための学習活動の取り扱い方について 各学年、主体的・協働的な学びを引き出す工夫として、教科書に「学習のめあて」や「学び方」「音楽のもと」が示されている。指導者が指導計画を立てやすく編成されている。 学習の見通しや活動を、わかりやすく明示している。歌詞の内容を、美しいビジュアルで表現している。 ○ 歌唱（教材）について 第1,2学年～ 音楽に合わせ動作や声の感じや強さを変え歌う活動ができるようになっている。 第3,4学年～ 曲にあった歌い方や響きを大切にしたい歌い方を工夫できるようになっている。 第5,6学年～ 思いや意図を大切に、仲間と共に表現を工夫したりすることができるようになっている。 ○ 器楽（教材）について 第1,2学年～ 音色の違いを感じ取ったり、楽器を選び歌に合わせて演奏できるようになっている。 第3,4学年～ 模倣演奏やパートの役割を生かし演奏できるようになっている。 第5,6学年～ 表現の多様性を生かしながら、旋律や響きの変化を取られ演奏できるようになっている。 ○ 音楽づくりについて 第1,2学年～ リズムのおもしろさを感じられるような内容になっている。 第3,4学年～ 音階の音を選び、友達と旋律をつなげ音楽をつくることができる。 第5,6学年～ 和音に合わせた旋律、音の重ね方、強弱、速さを工夫し音楽をつくることができる。 ○ 鑑賞について 第1,2学年～ 身体表現を通して音楽的要素を感じ取れるようになっている。 第3,4学年～ 曲の流れを感じ取り、全体を味わえる内容になっている。 第5,6学年～ 曲の特徴や世界の声の表現、楽器の響きに気づき聴くことができる内容になっている。 ○ 学習指導要領に則る内容について 第1,2学年「みんなのおんがく」第3,4学年「思いに合った表げん」第5,6学年「思いをこめた表現」の単元において、児童の考えや思いを広げる活動が効果的に取り上げられている。 	
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列について 第1,2学年～ いろいろな太鼓の音を楽しむ学習の後に、おまつりの音楽をつくる学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できる工夫がされている。 第3,4学年～ 音の動き方を生かして旋律をつくる学習の後に、旋律の特徴を生かして歌う学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できる工夫がされている。 第5,6学年～ 日本の民謡を調べる学習の後に、旋律の感じを生かして民謡を歌う学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できる工夫がされている。 ○ 分量について 〈歌唱〉1年46 2年50 3年47 4年52 6年47 〈器楽〉1年14 2年18 3年33 4年18 5年20 6年23 〈音楽づくり〉1年15 2年14 3年11 4年9 5年6 6年5 〈鑑賞〉1年14 2年14 3年13 4年19 5年11 6年13 〈総ページ数〉1・2年80ページ(3%増) 3年86ページ(増減なし) 4年84ページ(5%増) 5年86ページ(2%増) 6年84ページ(増減なし) 	
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 折り込みを使ったワイドな誌面で、児童の学習意欲を高める工夫がなされており、分かりやすい。 ○ 巻頭に「学習マップ」を掲載し、各題材で学習する内容を解説して見通しを持たせたり、「学習の進め方」コーナーを設け、それぞれの学習の目的や留意点を簡潔に示すなど、児童が主体的に学習に取り組む工夫がされている。 ○ ユニバーサルデザインフォントの使用、他教科と関連する教材、1人1台端末を活用し二次元コードか旋律の動きを動画で確認できるなど使用上の便宜が図られており、大変よくできている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 音 楽

番号 観点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	教芸	〈小学生の音楽〉 104 204 304 404 504 604
内容の構成・排列・分量等	○ 授業の目標を達成するための学習活動の取り扱い方について 各学年、主体的・協働的な学びを引き出す工夫として、教科書に「学習のめあて」やヒントとなる吹き出しを充実させている。 学習の見通しや活動を、わかりやすく明示している。歌詞の内容を、美しいビジュアルで表現している。 ○ 歌唱（教材）について 第1,2学年～ 音楽に合わせ動作や声の感じや強さを変え歌う活動ができるようになっている。 第3,4学年～ 声やリズムを合わせたり、声が重なり合う美しさを感じ取れるようになっている。 第5,6学年～ 和音の響きの移り変わりや言葉や旋律のまとまりを大切にしたりできるようになっている。 ○ 器楽（教材）について 第1,2学年～ 歌に合わせ楽器でリズムを打ったり、重ねて演奏できるようになっている。 第3,4学年～ リコーダーの息の使い方やパートの役割を生かし演奏できるようになっている。 第5,6学年～ 多様な響きを味わったり、曲にふさわしい演奏の仕方を工夫できるようになっている。 ○ 音楽づくりについて 第1,2学年～ 言葉でリズムをつくったり、リズムの繰り返しで音楽をつくる活動ができる様になっている。 第3,4学年～ 繰り返しや変化を使ったリズム、日本音階の良さを感じ取って音楽をつくる活動ができる。 第5,6学年～ リズムアンサンブルや旋律をつなげたり重ねたりして音楽をつくる活動ができる。 ○ 鑑賞について 第1,2学年～ 身体表現やいろいろな楽器の中から好きな音を探して聞く活動ができるようになっている。 第3,4学年～ 旋律の動きや音楽が表す様子を思いかべ聴く活動ができるようになっている。 第5,6学年～ いろいろな楽器の音の重なりや響きを味わい聴くことができる内容になっている。 ○ 学習指導要領に則る内容について 第1,2学年「はくにとってリズムをうとう」第3,4学年「日本の音楽でつながろう」第5,6学年「詩と音楽との関わりを味わおう」の単元において、児童の考えや思いを広げる活動が効果的に取り上げられている。	○ 内容の構成・排列について 第1,2学年～ いろいろな楽器の音から好きな音を探す学習の後に、音を重ねて音楽づくりをする学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できる工夫がされている。 第3,4学年～ 旋律の特徴を感じ取って聴く学習の後に、旋律の特徴を生かして歌う学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できる工夫がされている。 第5,6学年～ 日本の旋律の美しさを味わいながら歌う学習の後に、日本の民謡を調べる学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できる工夫がされている。 ○ 分量について 〈歌唱〉1年38 2年51 3年37 4年40 5年38 6年39 〈器楽〉1年29 2年23 3年32 4年24 5年17 6年18 〈音楽づくり〉1年8 2年8 3年6 4年8 5年6 6年4 〈鑑賞〉1年19 2年18 3年17 4年17 5年23 6年13 (総ページ数)1・2年82ページ(増減なし) 3・4年82ページ(増減なし) 5・6年86ページ(増減なし)
使用上の配慮等	○ 学習をサポートする写真やイラストの掲載、キャラクターの活用など、学習意欲を高める工夫がされている。 ○ 巻頭に「学習マップ」を掲載し、1年間で学習する内容の見通しを持たせたり、巻末に「ふりかえりのページ」を掲載し、学習を振り返ることができるようにするなど、児童が主体的に学習に取り組む工夫がされている。 ○ ユニバーサルデザインフォントの使用、他教科と関連する教材、1人1台端末を活用し二次元コードか旋律の動きを動画で確認できるなど使用上の便宜が図られている。	
その他	○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。	